

中学校区におけるめざす子ども像 将来をみすえ、自ら学習できる子										堺市立	福田	小学校
										校長	清野 寛之	
令和5年度 重点目標 重点目標を「主体的に学び続ける子どもとの育成」サブテーマ「～主体的に学びだす学習スタイルの探究～」とし、その実現を図るため、「総合的な学力の育成」「心と体の教育の充実」「地域協働による広がる教育」を推進していく。 学校教育目標である「自らを大切にするとともに、周りの人々も大切にできる福田っ子を育成する」ことを教職員が常に意識し、年間を通して計画的かつ組織的に教育活動の実践を行う。また教育目標を具現化していくための教職員研修を促進する。												
確かな学びの現状 「確かな学び」の現状 ・国語及び算数の知識・技能については目標値を上回っており、全授業者が堺版授業スタンダードを基本としながら、基礎・基本の確実な定着に向けた丁寧な取り組みが功を奏していると考えている。しかし家庭での読書や自主学習ノートを活用した主体的な学びに課題があり、本年度は「子ども自ら学びだす学習スタイルの探究」をサブテーマとして研修を行いたい。また、アンケートにおいて「自分の考えを書いたり、伝えたりする場面を多く取り入れ、学習過程がわかるノートづくり」取り組み「項目の児童肯定率が89%と昨年度と比べて10ポイントも上昇している。今後も「子どもが自らの学習過程を可視化する」ことで、思考力・判断力・表現力を向上させる授業の創造に、引き続き努力していきたい。さらに「子どもがわくわくドキドキする仕掛け」を授業の中に設定し、子どもの学習に対するモチベーションの向上にも取り組んでいきたい。					豊かな心・健やかな体の現状 ・本校児童は、全体的に素直で人懐っこく、教職員の指示をしっかりと理解することができる。しかし若干自尊感情が低く、「自分の言動に自信を持つことが苦手な児童」や、「価値観を異にする他者を受け入れる、豊かな心が未成熟な児童」がいる現状がある。そこで教職員が研ぎ澄まされた人権感覚を持ち、子ども一人ひとりに寄り添う生徒指導体制の構築と、特別の教科「道徳」等を通して「人として何を大切にしなければならないのか」をしっかりと考え感じさせていきたい。 ・新型コロナウイルス感染症によってさまざまな行動制約がかかり、児童の体力に若干低下傾向がみられていた。そこで本校独自の取り組みである「すもうプログラム」や、縄跳び、駆け足などの体力向上プランを推進するとともに、20分休憩を活用した体力づくりの習慣化を促進することで、ポストコロナ期における児童の持久力・瞬発力・敏捷性・巧緻性を育成していきたい。							
大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	主担	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)			
									自己評価	学校関係者評価		
確かな学び	基礎・基本の定着	読む・書く・計算する力を継続的に育成する。	朝読書(水)や図書室活動、並行読書、家庭読書等の取り組みで読書量を増やす。	「毎日読書30分以上」60%以上 「家で週3日以上読書する」65%以上	学校アンケート	年度末	加藤	○	朗読や並行読書、読み聞かせ「読書チャレンジ」、G7の国の本を紹介するなどの推進活動を積極的にやっている。	「毎日読書30分以上」が43% 「家で週3回以上読書する」が50%となり、ともに目標値を下回ったが、65%が「読書が好き」と答えた。	△	
			読書活動や自主学習、セット宿題等、家庭学習の充実で学習習慣の定着を図る。 ★自主学習ノートの活用	「毎日宿題をする」が90%以上 自主学習ノート80%以上	学校アンケート	年度末	青塚	○	読書や自主学習、セット宿題など、家庭学習を設定し、学習習慣の定着を図っている。	「毎日宿題をする」が91% 自主学習ノートの活用73% アンケートの結果より宿題をすることは目標値を上回ったが、自主学習ノートの活用は目標を下回った。	△	
			学校での朝学習(火・木・金)で漢字や計算などを繰り返し行い基礎学力の向上を行う。	定着テストの知・技の正答率が国語80%以上算数80%以上	定着テスト 学力テスト すくすくテスト	年度末	青塚	○	学校での朝学習に取り組む、漢字や計算などを繰り返し行い、基礎学力の定着に取り組んでいる。	国語の知識・技能81% 算数の知識・技能82% 国語は目標値を1%以上、算数は目標値を2%以上上回った。	○	
	授業改善・指導力の向上	思考力・判断力・表現力を育成する。	●教員全員が公開授業を行い、積極的に参観することで、授業力改善に努める。	研究授業・公開授業・授業参観	実践報告	年度末	教頭	○	今年度も全員の公開授業をめざし取り組んでいる。その中で、大阪府人権教育実践推進会の公開研究授業を行った。	年度初めからの欠員の影響で厳しい勤務状況の中、3学期半ばまでは全員授業はできていない。だが、大人数やリソースルームの公開研等新しい取組も進め、数値でも取組を進めたい。	△	
			自分の考えを書いたり、伝えたりする場面を多く取り入れ、学習過程がわかるノートづくりに取り組む。	アンケート項目「授業ではノートに自分の考えを書く活動がある」で肯定評価80%以上	学校アンケート	年度末	小山	○	授業で、自分の考えを書いたり、伝えたりする場面を多くつくり、学習過程がわかるノートづくりに取り組んでいる。	本年度は84%と目標を達成することができた。しかし、昨年度の肯定率89%に対して5ポイント下がってしまった。学校全体として引き続き意識して取り組んでいきたい。	○	
			堺版授業スタンダードに基づき、子どもがよく考え、わかる授業を展開する。	学校の単元テストの思・判・表の正答率が国語73%以上算数73%以上	単元テスト 学力テスト すくすくテスト等	年度末	小山	○	堺版授業スタンダードに基づき、子どもがよく考え、わかる授業を認識している。	国語の知識・技能81% 算数の知識・技能82% 国語は目標値を1%以上、算数は目標値を2%以上上回った。また、算数の思・判・表は72%と目標値を1ポイント上回った。またまだ伸びしろがあるので、子どもたちの思・判・表を上げていくために校内研修などに充実していきたい。	△	
	心身の健康	学びに向かう力・人間性等	・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする活動に取り組む。 ・自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組む。 ・総合的な学習の時間や自主学習などでは、自分のきょう妹・関心から学習の内よを自分で考えさせる。 ・学習したことを普段の生活で使う場面がないか考えられるようにする。	・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする活動に取り組んでいる。(学44番) ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。(学44番) ・総合的な学習の時間や自主学習などでは、自分のきょう妹・関心から学習の内よを自分で考えさせる。(CBT22番) ・学習したことを普段の生活で使う場面がないか考えさせる。(CBT25番)	CBT・学友及び学校アンケート	年度末	小山	○	各教科の授業や総合的な学習の時間を通して子どもたちが主体的に活動できるように、アンケートにあるような項目を意識しながら、授業づくりに取り組んでいる。	・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする活動に取り組んでいる。83% ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。75% ・総合的な学習の時間や自主学習などでは、自分のきょう妹・関心から学習の内よを自分で考えさせる。79% ・学習したことを普段の生活で使う場面がないか考えている。75% 今年度から取り組んだテーマなので、これをもとに来年度以降も取り組んでいきたい。	○	
			自尊感情や規範意識を醸成し、児童が安心できる学びの場をつくる。	あのねアンケートを用いていじめの早期発見に努める。	実践報告	毎学期	高田	○	あのねアンケートを学期に1回(2学期は2回)実施し、必要に応じて児童との面談も行った。	○		
			あいさつ・もくもくききび清掃の徹底	生活目標ふりかえりアンケート各項目で肯定評価80%以上	学校アンケート	年度末	高田	○	全校朝会にて毎月最初に生活目標を話し、学年単位で取り組んでいる。児童会が中心となって、生活目標に関する活動に取り組んでいる。	「自分から発言したいと思うことができた。」「もくもくききびそうじができて、気持ちいい。」「掃除機がけの音が聞こえて、		